

<p>第427号 2006. 12/10</p>	<p>社団法人 東日本プラスチック製品工業協会 東京都中央区築地3-12-5 築地小山ビル TEL 03(3541)4321 URL: http://www.ejp.or.jp FAX 03(3541)4324 発行人 高橋 廣</p>
--------------------------------------	---

目	次
前期技能検定合格発表…………… 1	「大江戸えころじー事情」から(四季)…………… 4
講師・検定委員合同研究会…………… 3	事務局レポート…………… 5
受賞おめでとう…………… 3	支部会開催…………… 6

おめでとうございます 前期技能検定合格発表
プラスチック成形技能士(射出成形作業)が誕生しました

平成18年度前期実施、国家検定プラスチック成形職種「射出成形作業」の合格者が10月3日(火)他の職種とともに全国一斉に発表されました。ご承知の通り東京都で実施される技能検定実技試験は東京都から当工業協会が委託を受け実施しているもので、毎年最も暑い時期に行われる年中行事です。東京都では「1.2級射出成形作業」併せて175名の受検申請がありました。関係者各位のご協力により7月29日(土)の会場準備から8月14日(月)の試験会場後片付け・製品採点まで連続17日間の強行軍でしたが、特に大きな事故・怪我も無く無事終了いたしました。

今年度東京都の技能士合格率は、1級46.1% (前年度実績15.5%) 2級49.6% (前年度実績38.2%) と前年度に比べ大幅に向上し極めて良好でした。受検者のレベル向上、事前説明会・事前講習への積極的な参加が影響しているかと思えます。また来年度も積極的にチャレンジされることを期待いたします。

さて、今回技能士となられた方は今後とも益々研鑽を積み、作業の無駄・コストの低減を図り、より優れた製品を生み出す企業の業績向上の担い手となられますようお願いいたします。

平成18年度 前期技能検定「プラスチック成形職種」合格者名

(工業協会申請者のみ)

射出成形作業 1級技能士 (31名)

氏 名	勤 務 先
鈴木 康 史	株式会社 ウッドベル工業

(但し都職能直接申請合格者が外に4名)

氏 名	勤 務 先
矢 鳥 竹 彦	吉田プラ工業株式会社

氏名	勤務先	氏名	勤務先
渡辺元晴	株式会社 ウッドベル工業	古木勝	積東興業株式会社
福島光男	株式会社 サンパーツ	亀田幸秀	亀田工業株式会社
斉藤英樹	株式会社 エフプラス	那須野健一	株式会社 南信精機製作所
塚原光紀	株式会社 エフプラス	小野大日	株式会社 メックモールド
榊原勝己	住友化学株式会社	露崎国博	株式会社 ヤシマ
大場勝彦	住友化学株式会社	竹野内修	山下電気株式会社
高木潤	高木プラスチック	磯部裕一	山下電気株式会社
丸田陽	泰興物産株式会社	田城祐樹	株式会社 エンプラス
岡修三	相模原部品株式会社	高野克典	株式会社 エンプラス
友野和史	かねひろ株式会社	奥田政行	工藤プラスチック工業株式会社
土屋憲昭	ヤマト・インダストリー株式会社	倉本浩二	株式会社 YPK
谷口健雄	ヤマト・インダストリー株式会社	千坂敏男	株式会社 YPK
吉岡正視	ヤマト・インダストリー株式会社	菅原雅浩	
門馬安浩	株式会社 サンパーツ	内田守彦	ウチダテクノサイエンス技術士オフィス
伊藤宏使	株式会社 ヒロプラス		

射出成形作業2級技能士 (54名)

(但し都職能直接申請合格者が外に5名)

氏名	勤務先	氏名	勤務先
酒多力也	株式会社 ウッドベル工業	赤堀晶	かねひろ株式会社
白阪彰	東京都立板橋技術専門校 指導員	山口尚輝	ヤマト・インダストリー株式会社
古谷雄司	株式会社 日新工業製作所	古川智寛	株式会社 サンパーツ
沖山義和	積水化学株式会社	歌川貴盛	ヤマト・インダストリー株式会社
戸花英樹	株式会社 エコー	竹原史彦	株式会社 エコー
轟貞彦	株式会社 エコー	吉田正則	株式会社 柳田製作所
仲村康則	株式会社 エコー	大木幸徳	株式会社 柳田製作所
榎森雄史	豊合成樹脂株式会社	小谷剛	株式会社 サトーゴーセー
本橋健太郎	昭和電器株式会社	三上大輔	昭和電器株式会社
君島勝則	株式会社 ライズプラスチック	谷津美代子	吉田テクノワークス株式会社
牧野豊	吉田テクノワークス株式会社	岩崎義広	株式会社 メックモールド
富田勉	幸立化成工業株式会社	高橋裕次郎	株式会社 ヤシマ
久保田明	東京都立板橋技術専門校 非常勤講師	八幡剛史	山下電気株式会社
青木真司	東京都立板橋技術専門校 受講生	安藤祐士	株式会社 常磐谷沢製作所
宮内章夫	山下電気株式会社	里見紘平	山下電気株式会社
高添充紀	山下電気株式会社	長田博行	山下電気株式会社
佐山利充	日進工業株式会社	芹澤征人	山下電気株式会社
嵯峨野涉	吉田テクノワークス株式会社	中島洋治	ナブラックス株式会社
上谷洋一	株式会社 YPK	河野直行	株式会社 根上産業
坂口順一	株式会社 YPK	石原将貴	株式会社 三恵技研工業
村田良孝	株式会社 エンプラス	榊原康治	株式会社 三恵技研工業
宮澤太郎	住友化学株式会社	柿内崇志	株式会社 サン精密化工研究所
赤石博幸	住友化学株式会社	斉藤高史	株式会社 サン精密化工研究所
河野浩二	住友化学株式会社	岡本哲也	株式会社 サン精密化工研究所
恒見雅彦	株式会社 精工技研	大川眞路	株式会社 サン精密化工研究所
小森勉	株式会社 エンプラス	佐藤裕久	高畑精工株式会社
永長弘慶	不二プラスチック株式会社	小原誠	共和合成株式会社

講師・検定委員合同研修会

去る11月10日(金)講師・検定委員合同研修会に10名が参加し、株式会社日本製鋼所広島製作所の見学会を実施しました。同社の最新情報・動向、並びに今般開発されたA Dシリーズ電動射出成形機、ペント射出成形機、通常私供では眼にすることが無い大型成形機等々、更に同社諸生産設備を



見学させて頂きました。正に百聞は一見誠に多くの知識・貴重な成果を得ることが出来ました。

研修終了後は、日頃のお仕事疲れのストレス解消と慰労を兼ねて、広島市内で株式会社日本製鋼所の菊川部長様、布下G R様を交えて懇親会を開催、秋の味覚を満喫いたしました。翌11日(土)は安芸の宮島を観光、絶好の季節に世界遺産の厳島神社外を参拝することが出来ました。一同日頃の忙しさを忘れ、心身とも大いにリフレッシュいたしました。

この度の講師・検定員合同研修会の実施に当たりましては、菊川部長様始め株式会社日本製鋼所広島製作所の数多くの皆様に大変お世話に成りました、この場をお借り致しまして厚く御礼申し上げます。

受賞おめでとうございます (敬称略)

平成18年11月15日に下記の表彰式が行われた。

- 東京都技能検定関係功労者表彰
工藤郁雄 堀込辰雄 池川豊吉 佐川宏文
- 東京都優秀技能者(東京マイスター)表彰
小泉博義
- 東京都中小企業育成ものづくり人材育成大賞
知事賞
吉田テクノワークス株式会社



社団法人 東日本プラスチック製品工業協会 平成19年度 新年賀詞交歓会のご案内

- ❖日時 平成19年1月17日(水)
 - 講演会 15時30分～16時30分
講師 近畿バイオメディカル(株) 取締役 横田 爽次氏
演題 「プラスチック成形における不良とクリーンルームの必要性」
 - 貢献者表彰式 16時45分～17時00分
 - 祝賀会 17時00分～18時30分
- ❖場所 上野精養軒 東京都台東区上野公園4-58 電話 03-3821-2181
- ❖会費 10,000円(お一人様)

「大江戸えころじー事情」から (四季)

地球温暖化ガスとしては炭酸ガス(二酸化炭素)、メタン、窒素酸化物、フロンなどがあるが、炭酸ガスの排出量が桁違いに多いので、温暖化ガスの主体は炭酸ガスである。炭酸ガスが増えると何故地球の温度が上がるのであろうか。太陽光線で昼間は地表の温度は上がるが、夜になると地表の熱は熱線(赤外線)となって宇宙に放散されて温度は下がる。しかし、大気中に炭酸ガスが増えると熱線を吸収して地表の温度が上昇する。このまま温暖化ガスが増え続けると、地球の気温は21世紀末には2℃上昇し、それに伴って海水の膨張や氷河の融解で海面は50cm上昇することが見込まれている。また、水循環や気象にも異変が起こり、農業生産や生活環境にも悪影響がでることが予想されている。

昨年(2005年)に発効した京都議定書では、わが国は2008年～2012年の平均温暖化ガス排出量を、1990年に対して6%低減する義務を負っている。しかし、最近の環境省における予想では、新型家電の普及、車や飛行機の利用増で目標達成はかなり難しいと報じられている。

私たちの生活で、自動車に乗り、空調のきいた部屋で生活し、プラスチック製品をどうどん使い捨てるなど、快適な暮らしをすればするほど炭酸ガスを増やすことになる。現在、暮らしを支えるエネルギーは石油、石炭、天然ガスなどの化石燃料であるので、これを燃やせば炭酸ガスを一方的に増やすばかりで、もとにもどることはないからである。

ところで、「大江戸えころじー事情」は、石川英輔氏が執筆した著書の題名である。本書では、環境問題に関する取り組みについて大変有益な考え方が示されている。

江戸時代は、3000万の人々が、太陽のエネルギーだけで暮らした時代である。現在の日本人の約4分の1の人が、太陽エネルギーのみを利用して環境に調和して生活した時代である。江戸時代の「えころじー事情」を調べてみると、環境問題を解決するためのヒントが得られると本書では述べられている。デンマークやドイツの環境対策を見学に行くよりは、われわれの祖先が生きた江戸時代の生活からヒントを得る方がはるかに有益であると指摘している。

本書では、森林は太陽エネルギーを生活に必要なエネルギーへ換えてくれる変換装置であると説いている。樹木は、太陽のエネルギーによって光合成を行いながら生長する。植物の葉緑素が光エネルギーによって炭酸ガスと水から、酸素とグルコース(糖分)、でんぷん、セルロースなどを作る

炭酸同化の反応を起こす。植物の光合成能力は大きくて、葉の面積一平方メートルにつき、一時間に約1グラムのグルコースを作ることができるという。特に、日本は国土の約70%が森林であるので、樹木の恩恵を受けている。江戸時代は、3000万の人が生活するのに必要な燃料のすべてを薪や木炭から得ていた。燃やせば炭酸ガスが発生するが、もともと光合成で炭酸ガスから合成されたものであるから、炭酸ガスの収支は0であり、地球上の炭酸ガスの濃度を増やすことにはならない。まさに、カーボンニュートラルの時代である。

江戸時代の主食は米であり、稲作も太陽や森林と深い関係がある。稲作に必要な水(雨)は、海水や地表の水分が太陽の熱で蒸発して上昇し、再び冷えて水となって落ちてきたものである。つまり、太陽エネルギーがポンプのような作用をして水を吸い上げ、循環させている。また、樹木の葉は、太陽の光を浴びて光合成を行うが、ある時間が経つと枯れて地面に落ちる。落ちた朽葉は、昆虫が食べ、ミミズやダニなどが有機物に変える。さらにそれをかびや細菌は植物の根が吸収できる形の無機物に分解を進めることで、生きた土ができる。この生きた土は雨水を蓄えて川に流れ出す。水に含まれる微量のミネラル分や栄養分は水田の稲を育てる。この米を食べて3000万の人は生きていた。

以上、本書で述べられている考え方の一端を紹介したが、できる限り化石燃料に依存しない生活に変えてゆくこと、自然循環に調和して生きることなどの大切さを学ぶことができる。

さて、温室効果ガスに代表されるように環境に悪影響を与える環境負荷は、次の式で表される。

$$\text{環境負荷} = \text{人口} \times \text{豊かさ} \times \text{技術}$$

人口が増えれば環境汚染物は多くなる。豊かな生活をすれば化石燃料を多く使い、結果として炭酸ガスのような環境汚染物質が増える。技術開発によっていろいろな機器を開発すればそれだけエネルギーを多く消費することになる。

地球規模でみると、人口も豊かさも減少することは難しいので、これからは

$$\text{環境負荷} = \text{人口} \times \text{豊かさ} \div \text{技術}$$

に発想を変えてゆくことが大切である。この式で、技術は省資源、省エネルギー、4R(リサイクル、リデュース、リユース、リペアー)などの技術開発を意味する。

プラスチック関連産業も、今後さらに発展するためには、このような発想で技術開発を進めることが大切である。

(案山子)

事務局レポート

■第280回理事会議事録

1. 日時 平成18年11月16日(木)
14時00分～14時50分
2. 場所 東日本プラスチック工業厚生年金
基金会館 会議室

3. 出席者

齋藤 森作	曾我部 上	佐山 敏夫
大野 泰昭	池下 龍	喜多 信夫
鈴木 幸雄	大井英 一	内藤 隆夫
小野 博世	白石 恵一	工藤 郁雄
大塚 一郎	犬飼 進平	大川 哲郎
信川 誠	後藤 暢夫	飯高 一郎
森 省三	肥後 武重	腰越 稔
檜山 徹	高橋 廣	(以上 理事)
森田 章	木村 進	(以上 監事)

4. 会長挨拶

安倍政権がスタートして2ヶ月経った。国内景気は大手企業の今冬ボーナスは過去最高で86万円とのことだが当業界を取巻く環境は依然として厳しい。2週間前、日経新聞の景気の実態に関する記事の中で、上場会社のうち73%の企業が景気回復の実感がないと答え、中小企業では78%の企業で回復実感がないとのことだった。逆に言えば現在国内企業の20%しか良くないということである。

伊藤東大教授はある講演の中で、日本の中小企業はこれからさらに厳しくなるとの見方を示していた。今後については海外に目を向ける戦略をとるか、或いは引き続き国内か、ユーザーや消費者をよく見て今後の経営の方向を掴むことが重要との話の内容だった。

いずれにしろ大企業は先々明るい話題が一杯であるが、我々中小企業は、足元をしっかりと見つめ少子高齢化社会に対応できるよう真剣に考えていくことが大事になると思う。

5. 議 事

議題1. 経過報告

専務理事より以下概略を説明した。

(1) 役員会等の開催

- 9月20日 第279回理事会 電気工事会館
- (2) 部会・委員会の開催
- ① 技能検定運営委員会
9月25～5日 後期検定受付 東日本協会
10月27日 前期検定反省会・慰労会
H・ラフィナート
- ② 能力開発推進委員会
10月19日 認定訓練管理者等合同会議
京王設備サービス
- 10月21, 22日 成形技術講座①, ②
板橋技術専門校
- 11月4, 5日 成形技術講座③, ④
板橋技術専門校
- 11月10, 11日 講師研修・慰労旅行
J S W広島製作所
- ③ 経営改善強化部会
10月24日 役員会 東日本協会 会議室
- ④ 青年経営研究会(J P O)
10月3日 役員会 東日本協会 会議室
- ⑤ A P M会
10月4日 第142回例会 程ヶ谷G C
- (3) 支部会等の開催
- 9月27日 城北支部会 南国酒家
9月28日 都南支部会 蒲田ア・ペア
10月12日 品川支部会 高輪「和彊館」
10月20日 都心支部会 銀座アスター
11月1日 墨東支部会
東武ホテルレバント東京
- (4) 全日本プラ連合会
9月29日 事務局会議(テレビ会議)
各地区工業協会



議題2. 会員の入会・退会承認の件

(1) 入会の部

正会員 1社

①会社名 新興産業(株) (埼玉支部)

所在地 〒343-0104 埼玉県北葛飾郡松
伏町田島東1-17

取扱製品 各種樹脂加工(工業用ほか)

賛助会員 1社

①会社名 (株)角八魚鱗箔

所在地 〒545-0053 大阪市阿倍野区松
崎町4-1-3

取扱製品 メッキ加工システム他

(2) 退会の部

正会員 1社

①会社名 (株)ショーワプロダクツ

賛助会員 1社

①会社名 (株)宝商

議題3. 平成19年新年賀詞交歓会開催の件

① 1月17日に上野精養軒で開催、講演会の講師は今回、クリーンルームの第一人者である近畿バイオメディカルの横田氏にお願いした旨説明。

② その他連合会の賀詞交歓会が1月23日に東京で開催されることになり昨年同様に役員宛案内を予定しており協力をお願いした。

③ 議長より貢献者表彰の推薦をお願いした。

その他事項

① 三木ビル保証金(8,000千円)返還について7月の退去以来、折衝してきたがこの程、三木不動産より10%の償却及び原状回復費用1,000千円を差し引き、6,000千円強の返還の申出があり、確定した段階で連合会へも同じ減額率を適用し回収後返戻とすることで了承された。

② 関東経済産業局の業務監査日程が来年2月初旬に決まった旨報告。

③ 経済産業省のサポーター・インダストリー採用結果については、東日本からは補助金交付事業の採用先はなかったが、計画認定先はメイキ樹脂工業とナガシマ工業の2社であった。

④ 技能検定委員長より、今年度前期検定の実績と全体の評価を述べた。特に合格率が前年より向上、事前研修参加者が多かったことも要因の一つであった。

以上で予定された議事が終了、15時から、以下

の雇用管理に関する特別講演会が開催された。

○ 演題:「労務管理における経営リスク」

講師: 社会保険労務士 鈴木 義一先生

■支部会開催

【品川支部会】

10月12日(木)品川にある日立金属「高輪和彊館」にて18名が参加し開催。大井支部長からは、樹脂原料の第8次値上げ要請もあってなお厳しい状況が続く見通しであるが、嘆いているだけでなく足元をみて乗り越えないといけない旨挨拶があり、本部報告の後参加者がそれぞれ近況報告を行い情報交換とした。とりわけ、4年前に主力先の受注がゼロとなり、その危機を乗り越えた会員企業Y社社長の話が全員から賞賛の声が高かった。

【都心支部会】

10月20日(金)銀座アスター「日本橋店」にて、武蔵野支部の安達支部長代行(石田プレス工業)等との交流をかねて14名が参加し開催された。また腰越共済事業委員長および肥後組合理事長も参加し日頃の御礼とそれぞれの事業報告及びお願いを述べた。その後、各参加者から順番に自己紹介と企業の状況等についてスピーチが行われ情報交換と懇親の場になりました。

【墨東支部会】

11月1日(水)錦糸町の東武ホテルレバント東京にて21名が参加し開催された。大塚社長が支部長就任後初めての支部会開催であり、歯切れ良く挨拶の口火を切りました。本部報告の後、今回は「労務管理における経営リスク」と題してコンサルタントの辻俊次郎先生から講演を頂いた。終了後、賃金関連の質問等質疑応答がなされた。情報交換及び懇親会では、各自近況報告を行い大変参考になりました。

【都南支部会】

11月24日(金)蒲田にある「利久」にて8名が参加し開催。佐山支部長の挨拶のあと、本部報告として、平成19年新年賀詞交歓会の案内、来年度の通信教育案内・勧誘、技能検定実技試験にかかる合格状況の推移・最近の受検者の傾向、板橋専門校の最近の状況及び受講生の就職依頼並びに来年度受講生の斡旋依頼が行われた。その後の情報交換及び忘年会では各自近況報告等が和やかに行われ大変有意義な支部会を開催することが出来ました。